



一関市・長徳寺

一関市藤沢町保呂羽の「時宗 不退山 長徳寺」は1388年に開基され、地域の心のよりどころとして630年余りの歴史がある。現在の第23世渋谷真之住職(46)は、幾度もの重い病を乗り越え、東日本大震災の際に犠牲者の追悼と被災者の心のケアに当たった。その経験から「生かされているこの命を人のために」との思いで2018年に日本臨床宗教師会の臨床宗教師の認定を受け、終末期医療でも活動している。

江戸時代の初め、一関市藤沢町大籠



長徳寺の冠木門と本堂

地域の心のよりどころに

では300人を超す隠れキリシタンが殉教した。長徳寺には、隠れキリシタンと知りながら檀家として受け入れて擁護した歴史がある。1894年には長徳寺15世智頓上人が慰霊碑を近隣に建立した。

大籠地区の歴史などを伝える「大籠キリシタン殉教公園」が開設25周年になることと、宗教を超えた世界平和を祈念して約170年ぶりに新しい慰霊碑を建立。9月17日には境内で「切支丹殉教者合同慰霊祭」が開かれる。当日は午前10時から慰霊碑の除幕式があり、渋谷住職と高橋昌神父(カトリック水沢教会)、川上直哉牧師(石巻栄光教会)が祈りをささげる。慰霊祭は午前11時から本堂で行われ、誰でも参加できる。

昨年には長徳寺で、古文書や歴史的資料をデータ化する東北大災害科学国際研究所の「地域のお宝伝承プロジェクト」が行われ、長徳寺とキリシタンの縁の深さが改めて裏付けられた。渋谷住職は「新慰霊碑の建立や慰霊祭が地域の歴史を知ってもらえる機会になればうれしい」と話す。

連絡先0191(63)3988。



「地域の歴史の伝承も寺の役割」と話す渋谷住職